

令和4年度 新発田市遺跡出土品展

発掘された木の道具

令和5年2月23日[木]～3月22日[水] / イクネスしばた 展示室

主催：新発田市教育委員会

開催にあたって

地下水が豊富な低地の遺跡を発掘すると、土器や石器のほかに、しばしば木で作られた物＝木製品が出土します。木製品は、当時の生活や文化について豊富な情報を持つ、とても貴重な資料です。しかし、出土した状態のままでは、非常にもろくて壊れやすく、乾燥すると形が崩れてしまいます。そこで、安全に収蔵・保管するために、薬品などを使って補強（保存処理）を行います。

新発田市でも、市内の遺跡から見つかった様々な時代の木製品について、保存処理を行ってきました。今回の展示では、保存処理した木製品の中から、時代ごとに特徴的なものを紹介します。木製品から見えてくる昔の人々の暮らしぶりを、ぜひ感じ取ってみてください。



古墳時代（3世紀後半～6世紀：今から約1750年前～1400年前）

【展示遺跡】 蚤取橋遺跡(竹ヶ花)：集落跡

古墳時代は、全国各地で、王や豪族が古墳と呼ばれるお墓を造るようになった時代です。市内では、古墳は発見されていませんが、集落などの遺跡が30箇所以上見つっています。

木製品は、蚤取橋遺跡の川跡から数多く出土しました。その中でも特徴的なものとして、まじないの道具(祭祀具)が挙げられます。剣形木製品や刀形木製品といった、穢れや邪気を祓うためのものや、齋串という、祓いを行う際に結界として使われたものが、完形で見つかりました。これらは、とても貴重な資料であることから、平成22年に市の指定文化財に指定されました。



川跡から出土した剣形木製品（蚤取橋遺跡）



齋串（蚤取橋遺跡）

古代（7世紀～11世紀前半：今から約1400年前～950年前）

【展示遺跡】 野中土手付遺跡(野中)：集落跡 / 飯島遺跡(飯島)：集落跡 / 空毛遺跡(飯島)：集落跡 / 地蔵湯A遺跡(飯島)：集落跡 / 曾根遺跡(天王)：役所関連の遺跡

古代は、天皇を中心とした中央集権の国家がつくられた時代です。飛鳥時代から平安時代前半までがこの時期にあたり、市内では、集落などの遺跡が200箇所以上見つっています。

木製品は、主に川跡から出土していますが、建物の柱穴や井戸、溝などから見つかる場合もありました。種類としては、食膳具や容器、履物、農具、漁労具、祭祀具などが挙げられます。

食膳具の椀・盤・皿は、いずれもロクロで整形し、漆は塗られていない白木作りです。箸は、太さが均一で、現代のものとは形が異なっています。容器では曲物が、履物では下駄があります。下駄は、台と歯を一木から削り出した連歯下駄です。農具では、土を掘る鋤・鋤のほか、田下駄が出土しました。田んぼでの作業時に、足が沈まないようにするために履きます。漁労具では、浮子が見つかりました。祭祀具では、従来からある刀形や舟形に加え、人をかたどった人形が新たに登場します。また、齋串の形状も大きく変わりました。これらは、中国の道教の影響によるものと考えられます。そのほかに、舟底にたまる水(アカ)を汲み出すアカトリや、舟板の結合部品として使われたチキリもみつっています。



柱穴から出土した下駄（空毛遺跡）



川跡から出土した鋤（曾根遺跡）

中世（11世紀後半～16世紀前半：今から約950年前～450年前）

【展示遺跡】 住吉遺跡(中島)：集落跡 / 矢詰遺跡(奥山新保)：集落跡 / 箱館跡(早道場)：武士の居館跡 / 妻ノ神遺跡(小坂)：集落跡 / 北沢遺跡(本田)：陶器・鉄の生産遺跡

中世は、武士と寺院が新たな権力者として登場・活躍した時代です。平安時代後半の院政期から戦国時代までが、この時期にあたります。市内では、武士の館や山城、集落、寺院などの遺跡が350箇所以上見つかりました。

この時代になると、木製品は、川跡をはじめ、館跡の堀や建物の柱穴、井戸、土坑、溝など、様々な遺構から出土するようになります。北沢遺跡では、鉄の生産時に生じる不純物（鉄滓）の捨て場の下層から見つかりました。出土量だけでなく種類も豊富で、古代では出土しなかった装身具や工具、糸を紡ぐ道具の紡織具、遊戯具なども確認されました。

食膳具では、漆器の椀・小皿のほかに、匙や杓子形木製品があります。匙はスプーン、杓子形木製品はしゃもじです。また、箸も数多く見つかりました。容器では箱の側板があります。板を組合せてつくる組合せ箱の部品で、木釘が残っています。履物の下駄は、この時期に、従来の連歯下駄に加えて、別材で作った台と歯を組合せる差歯下駄が出現します。市内の遺跡からも、両者が出土しました。装身具の櫛は横長のタイプで、横櫛に分類されるものです。農具では、土を平らにするために使うえぶりが、工具では、掛矢と呼ばれる大きな木槌や、木を割る時に使う楔があります。紡織具の紡錘車（紡輪）は、糸を巻き取る棒に回転力を与えるためのおもりで、中心に棒をさすための穴が開いています。遊戯具の羽子板は小型品です。羽子板は「胡鬼板」とも呼ばれ、災いなどを打ち祓うまじないの意味も持っていました。祭祀具では、舟形のほかに、信仰や供養に使用した卒塔婆や、災いや邪気を祓う呪文や記号を記した、呪符木簡という木札も見つかりました。



堀から出土した漆器の椀・小皿（箱館跡）



井戸から出土した漆器の椀（矢詰遺跡）



井戸から出土した下駄（住吉遺跡）



川跡から出土した呪符木簡（住吉遺跡）

近 世（16世紀後半～19世紀前半：今から約450年前～150年前）

【展示遺跡】 新発田城跡(大手町)：戦国大名新発田氏・新発田藩溝口家の城館跡

近世は、武士による強力な政権が誕生し、全国・対外関係を統一支配した時代です。安土桃山時代から江戸時代までが、この時期にあたります。市内では、武士の城や館、塚、陶器を焼いた窯などが20箇所以上見つかっています。

新発田城跡では、これまでに30箇所以上の地点で発掘調査を行いました。木製品は、堀や池、井戸、土坑、溝などから出土しています。種類としては、食膳具や容器、履物、玩具などが挙げられます。また、文字の記されたものが多いのもこの時代の特徴です。食膳具では、漆器の椀や、托たくという、器を乗せる台があります。容器では、漆器の重箱のほか、樽などの蓋板も見つかっています。履物の下駄は、様々な形のものが出土しました。底部をえぐって作る削り下駄と呼ばれるものや、台に黒漆を塗ったものもあります。そのほかに、墨で文字が書かれた墨書板や、焼印のある名札、珍しいものとして、玩具と推定される立体の馬形が見つかっています。



井戸から出土した重箱（新発田城跡 第11地点）



土坑から出土した下駄（新発田城跡 第21地点）



土坑から出土した墨書板（新発田城跡 第21地点）



馬形木製品（新発田城跡 第22地点）

令和4年度 新発田市遺跡出土品展

発掘された木の道具

展示解説資料

編集・発行：新発田市教育委員会 文化行政課

発行日：令和5年2月23日